

国際周期表年2019特別企画 第11回化学実験教室

2019年はロシアの化学者メンデレーエフが元素の周期律を発見して150年目の特別な年。この国際周期表年を記念した今年、参加者全員に「AR元素周期表」プレゼント。そして化学の不思議と魅力を分かりやすく教えてくれるのは、お馴染み、開成中高の宮本一弘先生！対象は小中学生です。1実験だけでも全実験でも自分の興味に合わせて参加OK。意外に身近な化学の不思議に触れてみよう！

期 日：令和元年7月14日(日) 各実験定員15人(要事前申込)、1実験各200円

【講師】宮本一弘先生(開成中学高等学校理化学部顧問、NHK高校講座講師/化学基礎)

【共催】公益社団法人日本化学会 【協力】東京エレクトロン株式会社

第1時限 9:30~10:30 「科学遊びを楽しもう！」

①水の上で動く紙!?②氷釣りをしよう

第2時限 11:00~12:00 「身近なもので化学実験」

①冷却パックを作ろう②シャボン玉を浮かべよう

第3時限 13:30~14:30 「不思議なカラーマジック！」

①消える絵!?②色の魔法～酸とアルカリの実験～

※1 第19回子ども金山探検隊は好評につき、定員満員御礼、申し込み受付を終了しております。

お申し込みくださった皆様、ありがとうございました。ご参加される皆様は準備万端整えて、当日をお楽しみに。

※2 すべての事業は事前申し込みが必要です。また、申し込まれた方でやむなくキャンセルされる方は、お待ちの方にお譲りしますので、必ず博物館までご一報ください。参加・ボランティアなどすべてのお申込み・お問い合わせは

湯之奥金山博物館 TEL.0556-36-0015 FAX.0556-36-0003 まで

—夏休み自由研究プロジェクト2019 inアイメッセ—

2019
7/15 (月・海の日)
13:00~15:30
於 甲府・アイメッセ

毎年恒例、県内博物館美術館が集結。海の日に開催される合同プレゼン「夏休み自由研究プロジェクト2019」に、いつもの「砂金採り体験」と異なる「比重選鉱」で当館が参加します。どんなブースか乞うご期待！

—ゴールド&プラチナカンファレンス2019—

2019
8/24 (土)
13:00~15:30
於 東京・霞ヶ関イイノホール

世界経済の展望、金・プラチナ価格の変遷と最新情報などなど、貴金属にフォーカスしたカンファレンスに、「黄金の町」として当館とも一ん父さんがゲストにお呼ばれ、ブース出展で身延町と博物館をPRして参ります。

編集後記

新企画もたくさん展開し今のところ絶好調。そんな中、夏本番を目前に、この時期はいつものことながら大わらわ。今年は天候に悩まされませんようにと願うばかり。とにかく頑張っ参ります。ということで、砂金掘り大会への申し込みどうぞお忘れなく！

博物館だより

第88号 令和元年6月22日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス <https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>

博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp も一ん父さん [f](#) [t](#)

甲斐の金山から

令和元年6月22日 第88号

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡/湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

「令和」最初のチャンピオンシップ参加者受付中!

7月27日(土) 一般大会 午前10時~競技開始



集う若獅子、9校激突、砂金甲子園! 7月28日(日)開幕!

灘vs開成vs山梨学院vs大妻vs桐朋vs麻布vs
明治大学付属中野vs逗子開成vs峡南高校

令和最初の砂金掘りNo.1校の栄冠はどこに!?
見ているだけでも面白い!2年ぶりの学校大会。
パンニング皿にひと夏の青春をかけた生徒たちに、
皆様の熱い声援をよろしくお願いします!

■日程 ※雨天開催
9:00~ 開会式・トロフィー返還
9:20~ 競技説明・競技開始
9:20~10:00 (団体戦 30分間)
10:20~11:00 個人戦(7分間)×5試合
11:30~ 結果発表・表彰式
12:00~ 交流懇親会
13:00 解散

《金山博物館の周辺から話題をひろって・4》 歴史的情報伝達の形・三題—第1回いでさんぼの成果から—

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 出月洋文

この5月に元号が改まり、そこはかたなく新時代感がただよっているなかで、湯之奥金山博物館においてもいくつかの新しい試みを実施に移してきております。その1つに館長講座があり、またそのアウトドア版としての「いでさんぼ」というのも用意されています。

館長講座は、文字どおり館長が担当する館内での90分の座学です。シリーズテーマを「峡南の考古学」とし、主に当館の所在する峡南地域の歴史を考古学的なアプローチから掘り下げていくもので、館の繁忙期を除き毎月開催となっています。またこの座学とは別にフィールドに出て、博物館周辺の地域の歴史などを、現地を注意深く観察することで解き明かしていこうとする「いでさんぼ」なる企画も始まっています。

今回の話題は、第1回いでさんぼの開催(6月8日)の中から拾った3つの歴史的な情報伝達をめぐる歴史遺産のこととなります。

その第1は、中世の烽火台です。烽火は古代中国に始まる情報伝達手段で、山梨とその周辺には、甲斐武田氏の全盛期に、甲斐の府と国境地帯を結ぶ放射状のルートそれぞれに、見晴らしのよい烽火場を整備し、情報を伝える烽火の視認をリレーする、今流に言えば光通信ということになるものでありました。戦国時代に国境を超えて軍を進め、領国の拡大にしのぎを削る状況の中では、目で見える、すなわち光による通信は、きわめて迅速で、たいへん有効だったと想像されるものです。

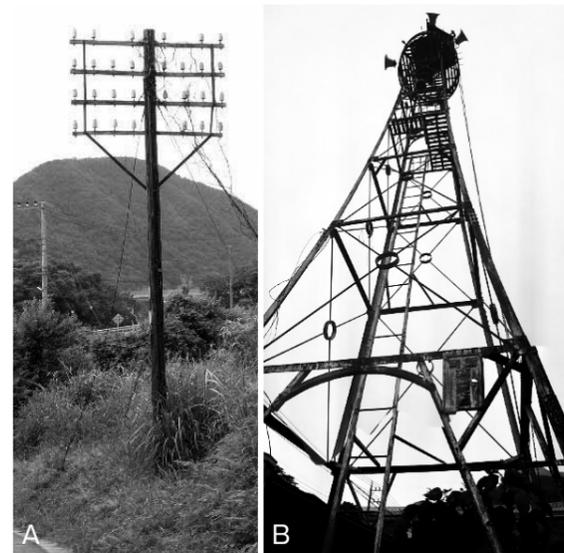
イベントの出発点となったJR身延線の波高島駅を出て、中部横断道の下部温泉・早川IC入口交差点付近に進むと、富士川の流れを眼下に、西方に粟倉山、北西に烏森山、北に宮木の烽火台を展望することができました。この時のイベント参加者には、散策テーマの「波高島周辺—交通の歴史見て歩き」を飛び出して、戦国時代の光通信のようすに、時間を超えて入り込んでいく時間がありました。

なお、富士川流域に認められている中世の烽火

台群については、別に機会をいただいでご紹介をたく思います。

さて、2つめの情報伝達に関する遺産に話を進めます。それは、下部温泉・早川IC入口交差点から歩いて5分ほどのところにありました。下の写真の左(A)に示したものがそれですが、昨年、全通90周年を迎えたJR身延線の初期段階に、鉄道の安定運行を担う通信にかかるケーブルを支える古い木柱でありました。上方の4つの腕木に、たくさんの碍子がついていますが、それだけ多くの通信回線が必要とされていたことを示すものです。いま通信ケーブルは外され、前後の木柱も撤去されてしまっていて、これだけがぽつんと残り、その意義も失われてしまっているという状況でしたが、その実際の姿を見つめ、電信全盛の時代の鉄道用の通信網に想いをつないでくれるものでありました。

歴史的通信の文化遺産の3つめは、波高島集落の中にそびえる火の見櫓でした(写真B)。今回の歴史散策のテーマである「交通の歴史」からは逸れる感のあるものでしたが、波高島集落の歴史を理解する上で欠かせないシンボルと思われまし、鉄の現代史という切り口で身延線鉄橋などとなつなるところもありましたので、併せて考えることとなったものです。



鋼材で組み上げられたこの火の見櫓には、下部に2つのプレートが見られるのですが、その中身が重要で、1つは昭和31年の建造であることが理解されるものでした。もう1つは、ある個人の方が、建造費用を「寄付」という形で提供したとの経緯が確認できるものでありました。山梨県下には、このような火の見櫓がまだ各地に見られ、そのいくつかには建造年がわかるものがあります。それらはおよそ昭和30年頃から40年代にかけてのものが多く、波高島の火の見櫓は、鉄製火の見としては、早い部類にはいります。戦前・戦中は鉄が貴重で、戦後10年ほどしてようやく鉄が民生用として手が届くようになっていったことを物語ります。

こうした火の見櫓は、上部の望楼に吊された

半鐘などで火災に関する情報を地域に発信する役割を担っていました。いま、それが携帯電話メールに置き換わってきて、次第に老朽化した火の見櫓は地域によっては消え始めています。

ここからまとめとしますが、地域の歴史を伝える文化遺産の実際を見て、忘れられようとしている歴史的な姿から過去を知り、また併せてこれからの新しい時代についての展望をもつ、そういった時間が、参加者の皆さんと共有できたといえるものでした。そして、人が交わる交通の場の隣り合わせに、情報伝達を担うものもあったということで、地域をいっそう興味深く、その歴史をよりリアルにとらえることができたのではないのでしょうか。またこれから先、どんな展開があるか、楽しみにもなりました。

いでさんぼ

2019 大野山本遠寺をたずね
第2回 8/18(日) 養珠院さんの素顔にせまる
第3回 10/12(土) 丸畑を訪ね、江戸後期の地域社会の発展のようすを考える

館長講座「峡南の考古学」シリーズ

2019 黄金時代の始まり
第3回 8/24(土) —弥生から古墳時代の中で—
第4回 9/21(土) 古代社会の中の地方 一律令期の地方のすがた

館長の「夏休み自由研究相談コーナー」今年も開設!

“自由研究”って、どんなアプローチで、どうやって疑問解決したらいいんだろう?金山博物館館長が毎年奨励している自由研究のテーマは、ズバリ!「好きなこと」。誰だって「自分の好きなこと」や「興味あること」をやるのが一番楽しいんだから!これこそが“学問”の入口、未来の研究者への第一歩。「自由研究プロジェクトin金山博物館」は館長による学習相談室です。

何かやりたいけどテーマが決まらない、課題への取り組み方のヒントなど、受付カウンターの「自由研究相談コーナー開催中」の案内が出ている時は、スタッフさんに声をかけてね。きっとヒントとなる研究の糸口が見つかるはず。館長在館中は次の時間帯で随時開催しています。

展示期間: 2019年7月16日(火)~8月25日(日)の間の館長在館中
時間: 午前10:30~12:30と午後3:00~4:30



3月28日(木)~5月12日(日)までの約2か月間、「門西家文書」中に見え隠れする断片的歴史事項や湯之奥金山の盛衰を、コンパクトながらわかりやすく展示した平成最期の企画展「古文書に現れた江戸時代の三金山」を開催いたしました。

文献史学・貨幣研究の第一人者であり当館運営委員でもある、西脇康先生に、月に一回、地域の皆さんとともに、古文書読解教室を開催していますが、その教材の中心となっているのが、当館寄託資料の「門西家文書」。古文書学習と同時に、文字資料から垣間見えた江戸時代の三金山の歴史や姿、謎を紹介する展示となりました。決して派手な展示ではありませんが多くのお客様に、2階の展示室と合わせてじっくりご覧いただくことができました。

活動報告

有料入館者40万人目達成。10連休は連日大賑わい☆

3月31日(日)

売店壁面に飾られている記念入館者の数字が40万人を数え、真新しい写真フレームが飾られています。ここに笑顔で映るのは、千葉県からお越しの小寺さんご家族。年度末最終日の去る3月31日(日)に、有料入館者40万人目のお客様となりました。

ここに弾みをつけ、異例の10連休となった今年のゴールデンウィークは、館内ミニイベントも連日開催し、もーん父さんも下部温泉駅周辺で連日、朝のお出迎えとお見送りをし、本当にたくさんのお客様においでいただくことができました。統計発表によると、博物館がある峡南エリアで、昨年比入客増加数NO.1は、昨年比約1,000人増加の「湯之奥金山博物館」。来て



くださったお客様が楽しみ、快適な滞在時間を過ごしてもらえよう、これから迎える夏も引き続き頑張り、41万人目のお客様のニュースをお届けしたいと思います。

開館22周年記念 熱気球×キャンプ 大盛況

4月21日(日)



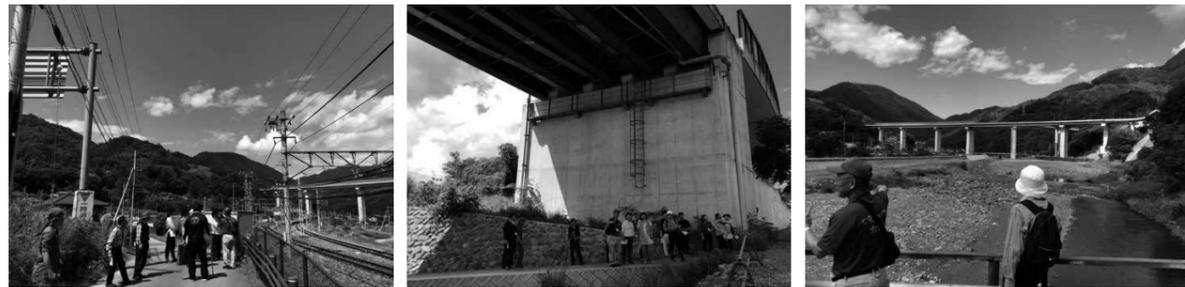
開館22周年記念事業「熱気球搭乗体験」。お天気にも恵まれ、五条ヶ丘活性化推進協議会の関係者、そして気球を揚げてくれた岐阜県高山市の「おっばら夢組合」の皆様、多くの方

のお手伝いと事前の周到な準備のおかげで、約100人のお客様ともーん父さんは無事に、楽しく気球に乗ることができました。博物館の夏イベントの横断幕を貼った真っ赤な気球は、青空にくっきりと美しく映え、とても綺麗に見えました。参加された方からは「思いのほか高く、またとても楽しかった」、「また、ぜひ企画してほしい」などの声が寄せられました。この事業の大成功をもって、開館記念日という節目からのスタートを気持ちよく切ることができました。

画してほしい」などの声が寄せられました。この事業の大成功をもって、開館記念日という節目からのスタートを気持ちよく切ることができました。

第1回「いでさんぽ」開催 波高島篇～

6月8日(土)



近くにありすぎるとついつい見落としがちなもの。地元で隠れている小さな歴史もその一

つです。そんな町内周辺の身近な歴史を、出月館長の案内でぶらぶらまったり感じてみよう

というアウトドア講座・「いでさんぽ」が6月8日(土)からスタートしました。

記念すべき初回は、波高島エリアを取り巻く交通の歴史がテーマ。昭和初年から、最新は平成後期建造の中部横断自動車道の高架橋まで、川を渡るために多くの人々が汗を流した歴史が詰まった波高島周辺。時代ごとに建設された

架橋や、それを取り巻くエピソードについて、梅雨の合間にのぞいた、夏を思わせるような青空のもと、参加者は、お散歩にぴったりの、手のひらサイズの特製ミニブックを片手に、散策しました。次回「いでさんぽ」は8月。大野山周辺を訪ねます。どなた様もお気軽にご参加ください。

久間先生のトリック工作教室

6月9日(日)



今年度最初のお子様向け教室は久間英樹先生の「錯覚トリック工作教室」。大人向けに開催した3月の教室から、今回は子供向けにアレンジして開催。町内外から沢山のお申込みをいただきました。人を上手に“騙す”には話術が重要という久間先生の言葉通り、“錯視”を利用した不思議な体験に、先生のトリッキーな話術が加わり、保護者の方も「え?」と驚く一幕も。錯



覚と工作とで、会場は終始笑顔に包まれ、シンプルだけどとても不思議な楽しい教室となりました。子供たちからは「単純にすごいと思った」、「想像していた教室と違って面白かった」という声をたくさんいただきました。

そんな久間先生の面白教室、次回はまた趣向を変えて12月にモノづくり教室を予定していますので、お見逃しなく。

座学・館長講座「峡南の考古学」スタート!

5月25日(土)、6月15日(土)



5月25日(土)の昼下がり、第1回館長講座『峡南の考古学』がスタートしました。

考古学を通して峡南地域の歴史について考える学習会で、毎月様々なテーマで開催する館長トーク。第1回目は「年代のものさし」、2回目は「縄文」をテーマにお話が展開されました。毎月開催予定で次回は8月24日(土)。開催時間に合わせておいでいただければどなたでも聴講可能です。※7月は休講です。

佐渡金山遺跡 現場確認調査

通常業務の傍ら館外での調査活動も継続的に行っている当館ですが、このほど小松学芸員が佐渡金山の現地調査に赴きました。世界遺産登録に向けて入念な調査を進めている佐渡金山ですが、この4月にガイダンス館「きらりうむ佐渡」もオープンし、より広く金山の歴史を発信していこうと精力的です。そのように調査が進んでいる佐渡の現況と、そして鉱山臼を始めとする遺物の再確認などと合わせて現地調査に赴きました。松江高専の久間英樹先生と九州大学名誉教授の井澤英二先生の坑道調査にも同行させていただき、新たな知見も得ることができました。坑道の形

5月31日(金)～6月3日(月)

状や掘り方から時代や技術者たちの思いを感じ取るためには、坑道に入らねば分からないことが多く、そこから当時の鉱山の姿を検証することができます。今回の情報は、当館の展示解説にも直結して参考になる内容で、当館の常設展示パネルにも反映させることができるように考えておりますので楽しみに。



もーん父さん活動報告☆スカイツリーに行ってきました

5月25日(土)～26日(日)



東京はスカイツリーのお膝元、墨田区親水公園会場で開催された「ご当地キャラフェスティバル in すみだ2019」に初参加したもーん父さん。梅雨を前に、全国的に今年最初の猛暑を記録したこの週末、全国から約100キャラが参加する中、約10分間のPRステージでは、湯之奥金山博物館をしっかりとPRする中、得意のマジック



を初披露！見事大成功(?)し、会場のお客様を楽しませたもーん父さんでした。地元身延では交通安全運動のお手伝いでお巡りさんからお礼を頂いたり、日々地域の活動もがんばっています。館外PR大使として、今年も広く頑張っていくことを誓ったもーん父さんです。

「第19回砂金掘り大会」参加者受付中！

参加を躊躇しているそのアナタ！“令和”最初の夏の思い出に！

砂に混入した決められた数の砂金を、制限時間内に早く正確に落とさずパンニング！大人も子どももドシドシお申し込みください。総合優勝者には、パンニング皿オリジナルトロフィー(翌年要返却)と、勝者の証・もーん父さんオリジナルメダル(純銀製金メッキ仕上げ)・賞状をお送りいたします。

期 日：令和元年7月27日(土) 9:30～15:00 (於 湯之奥金山博物館専用駐車場)

- 部 門：男女一般部門 10kg (高校生以上)
ジュニア部門 6kg (小学生・中学生)
- 参加費：大人(高校生以上)500円
小・中学生300円
- 参加賞：ドリンク(ダイドードリンコ株式会社提供)
ミニうちわ(愛知県・あおい商店提供)
- 定 員：先着200人/7月25日(木)締切
- 表 彰：2部門ともに 優勝から第3位まで賞状とメダル授与

■日 程 ※雨天開催	
9:30～	受付
10:00～	開会式・トロフィー返還式
10:20～	競技説明・競技開始 (ジュニア部門・男女一般部門予選)
12:30～	男女一般部門本戦
13:00～	頂上決戦
13:30～	ミニゲーム/マイパンニング皿部門
15:00～	表彰式

☆低学年向け敢闘賞新設！小学生1～3年生までの参加者内で最も順位の高かった選手に賞状授与。お兄さんお姉さんたちに追い付け☆



砂金甲子園！第16回 東西中高交流砂金掘り大会



期 日：令和元年7月28日(日) 午前9時～13時 (於 湯之奥金山博物館専用駐車場)

■出場校(全9校)：灘(兵庫)、開成(東京)、山梨学院(山梨)、大妻(東京)、桐朋(東京)、麻布(東京)、明治大学附属中野(東京)、逗子開成(神奈川)、峡南高校(身延町)

実に2年ぶりの学校交流大会。令和初優勝校の栄冠はどこに!?